

# チャペル週報

人の子は仕えられるためではなく仕えるために、  
また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために  
来たのである。

(マルコによる福音書 10:45)



2006 9 25 ~ 9.29 No.13  
関西学院宗教センター

---

## チャペル・スケジュール

---

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

---

9月25日(月) 神 木ノ脇 悦 郎 (神学部教授・学部長)  
経 舟 木 讓 (宗教主事)

---

9月26日(火) 院 樋 口 進 (宗教センター宗教主事)  
神 『詩編』シリーズ David Wider (宣教師)  
文 田 淵 結 (宗教主事)  
社 新学期を迎えて 打樋啓史 (宗教主事)  
法 栗 林 輝 夫 (宗教主事)  
経 舟 木 讓 (宗教主事)  
商 辻 学 (宗教主事)  
総 福 田 豊 生 (総合政策学部教授・学部長)

---

9月27日(水) 神 }  
文 } 創立記念学部合同チャペル  
社 } 畑 道也 (院長)  
法 } 於 中央講堂  
経 }  
商 }  
理 秋学期礼拝オリエンテーション  
総 細 見 和 志 (総合政策学部助教授)

---

9月29日(金) 神 永 倉 直 嗣 (M1)  
文 Andreas Rusterholz (宣教師)  
社 いのちを考える Ruth Grubel (宣教師)  
経 舟 木 讓 (宗教主事)  
商 辻 学 (宗教主事)  
理 秋学期礼拝オリエンテーション

---

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20~8:40 於:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)  
9月29日(金) 創立記念日(9/28)を覚えて 平松 一夫  
総合政策学部早天祈祷会 毎水曜日 午前8:40~ 於 I号館312教室

---

# 新月を仰いで

畑 道 也

学院が創立されて5年が経過する中で、校章「新月」が決定された。教員・生徒からなる委員会が1894年に結成され、生徒から提出された新月(三日月)と、教員から提出された「K.G.」の2文字を総合して現在の校章が決まったのである。

この校章は何を意味しているのだろうか。この校章には、私たちは今あらゆる面で不完全な者であるが、新月が次第にふくらんで満月となっていくように、絶えず向上していきたいとの願いがこめられている。また、月は自ら光を放つのではなく、太陽の光を受けて暗い夜を照らすように、私たちは神の恵みを受けて輝き、世の中を明るくしていきたいとの願いが表わされている。

当時の生徒たちが、自分たちを自ら光を放たない月になぞらえて、月が太陽の光を受けて自らを輝かせるように、われわれは神の輝きを常に受けて自らを輝かせ続ける者であるという自覚をもっていたことは、今の時代から見ると、まことに驚くべき事柄と言えるのではないだろうか。学院の草創期にあって、生徒たちが秋の宵に輝く三日月を仰ぎ、このような啓示を得たのだという。

今から40年前、わたしは西アジアのイランに留学していたことがある。そんなある日、友人の一家に招かれて昼食をごちそうになった。イランはまだ大家族制であったから、友人の家族や親類縁者も交えての賑やかなひと時となった。そして食後の昼寝をたっぴりと取った後、夕刻になると、それぞれ絨毯や太鼓を抱えて郊外の小高い丘に登り、歌と踊りを楽しんだが、その途中で少し疲れを覚えたので、地面に敷いた絨毯の上にゴロリと横になったとたん、ハッと息をのんだ。生まれてはじめてみる砂漠の夜空が目の中に飛び込んできたのである。

すぐ手の届きそうなところに大きな星がある。おびただしい大小の星が、すぐ目の前から天空の奥の奥までずっと連なっている。思わず、地球の表面から滑り落ちてしまいそうな気がして両手で地面を押さえてしまった。あの星空を前にしたとき、この自分が砂粒のようにちっぽけで、まことに心もとない存在に思えたのである。

すべての星が、わたしたちに向かって優しく瞬いてくれているようにも思え、地上の人間の営みとは無関係に、ただ光っているだけのようにも思えた。そして星々の間に揺るぎない秩序があり、一つの意志が存在しているように感じられた。その感触は、今も私の内部に鮮明に残っている。このことを思い出すたびに、聖書の創世記に記されたアブラハム(前名アブラム)の物語の一節が思い浮かぶ。「あなたは生まれ故郷 父の家を離れて わたしが示す地に行きなさい。」(創世記12:1)という主の言葉に従って、アブラムはカナン地方(今のパレスティナ)に向けて旅立った。

そしてカナンに住み着いたアブラムは、すでに高齢であったにもかかわらず彼の跡を継ぐべき子供をまだ授かっていなかった。自分で何とかしなければならぬと焦ったアブラムは、家の使用人に跡を継がせることにしたが、主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」神によって満天の星の下に連れ出されたアブラムは、人間の小さな計算では測りがたい大きなスケールで、神の摂理はたゆみなく進められていることを納得したのである。こうして子孫の繁栄を神に約束されたアブラムは、妻サライ(サラ)との間にその子イサクをもうけた。

アブラハムは紀元前2000年頃の人で、旧約聖書ではイスラエルの民族の伝説的な父祖とされ、その名は「多くの国民の父」を意味し、その信仰厚い人格により、すべての人の模範として、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教においても厚く尊敬されている。

日頃、わたしたちは、ともすれば自分のことで頭の中を一杯にして世間を右往左往してしまいがちであるが、この定まりのない世にあって、時には、神の視点から自分を見ても必要なのではなからうか。

(院長)

## 吉岡美国展

「関西学院を育てた人 - 第2代院長吉岡美国」

- ・写真でたどる吉岡美国の生涯
- ・吉岡美国の遺品展示

期 間：9月26日(火)～10月5日(木)

と ころ：吉岡記念館ラウンジ

主 催：吉岡記念館

## 創立記念チャペル

9月28日は関西学院の創立記念日です。前日、西宮上ヶ原キャンパスでは学部合同で記念のチャペルを行います。

と き：9月27日(水)10:35～11:05

と ころ：中央講堂

メッセージ：畑 道也(院長)

## 関西学院チャペル・オルガニスト秋の発表会

各学部のチャペルで奏楽を担当するチャペル・オルガニストたちをはじめ、来春チャペル・デビューを目指す下級生たち36人が、練習の成果を披露します。演奏曲はJ.S.バッハ、D.ブクステフーデ、M.レーガーなどなど...

パイプオルガンに関心のある方、そしてランバス記念礼拝堂に入ったことのない方もどうぞお気軽にお越しください。演奏中以外は入退場自由です。

日 時：10月7日(土)10時～16時(途中昼休憩有り)

場 所：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

指導者：高橋明子、太宰まり

主 催：吉岡記念館宗教センター

## 今の世界の「人権」を考えるフィルム・セッション(第2回)

民族の暴力と分断される日常

ミルチョ・マンチェフスキー監督『Before The Rain』を観る

と き：10月2日(月)15:15～18:20

と ころ：吉岡記念館 会議室1(3階)

トーク：舟木 謙(経済学部・人権教育研究室副室長)

打樋啓史(社会学部)

司 会：阿部 潔(社会学部)

主 催：関西学院大学人権教育研究室

<吉岡記念館企画・一般公開・参加無料>

## 秋の献血週間のお知らせ

学生会宗教総部では、秋の献血週間を実施いたします。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。

皆様のご協力をお願いいたします。

期 間：10月10日(火)～13日(金)

受付場所：吉岡記念館

## 教職員・学生有志による日曜礼拝

授業期間中の第2第4日曜日に一部英語を用いるバイリンガル形式で礼拝が行われています。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

10月8日(日)、22日(日)

午前10時～11時 関西学院会館ベーツチャペル